

知床の窓から見えるもの

2021年9月3日（金曜日）

「出張先 知床岬」

大阪から羅臼に来て、もう？（まだ？）4年目の看護師です。仕事でもプライベートでも、何かとまだまだカルチャーショックを感じることは多いのですが、『すっかり羅臼人と化してきた部分もあるよなー』とも思う今日この頃…

そんな中、この夏、2泊3日で、「ふるさと少年探検隊」の保健係として同行させていただきました。

ふるさと少年探検隊は、「ふるさとの自然に親しみ、豊かな心を養うとともに、郷土愛や忍耐力、協調心を育てる」ことを目的に、羅臼町内の小学4年生～中学3年生を対象に行われる野外活動で、今年でなんと38回目という羅臼の夏の恒例行事でございます。「この先行き止まり」の看板で有名な相泊から出発し、モイルス湾で滞在するわんぱく隊と、そこから先、知床岬まで踏破するチャレンジ隊の2隊で構成され、本来は5泊6日の行程。新型コロナウイルスの影響で、去年は探検隊史上初の延期になり、今年も開催が直前まで危ぶまれていましたが、大人たちが熟慮に熟慮に熟慮を重ね、例年より期間や参加人数はコンパクトではありますが、参加者全員で知床岬を目指すこととなりました。

道中は、知床半島東側ならではの険しい大自然の連続。命綱を握りしめながら落差100mほどの崖を上り下り。なんちゃってアウトドア派の私は、崖の途中で振り子状態…（全身打撲、擦過傷多数）張りつく様に崖のような坂道を登りながら「右に落ちちゃだめだよ」と右を見れば、視線の先の青さが、もはや海か空かわからない…（平衡感覚異常、眩暈、嘔気）不安定な玉石の浜も、みんなから遅れぬよう常時、小走り…（両足首捻挫…巻きついた昆布は湿布代わり）やっどこさ崖を下り、一息ついていた所に雄のヒグマ登場。（恐怖→心折れる）保健係の使命は「参加者全員を元気に帰すこと」だと思っただけでしたが、一番ダメージを受けていたのは私だったような…

それでも、知床岬の大地部分を踏みしめたときは、憧れだったこの地に、自分の足で本当に立てたこと、そして、きつともう二度と来ることはできないだろう（自信喪失）等々、ありがたくて嬉しくて悲しくてしんどくてあちこち痛くて、潤む目もそのままに、あの場所でしか感じられない降り注ぐ日差し、吹き抜ける風、波の音、草木の香りを、全身で満喫させていただきました。

そんなこんなで、なんとか全日程を無事終了し、大きなけがや病気もなくみんなで帰ってくることができ、めでたしめでたし…探検隊終了後の出勤初日、「件名：ふるさと少年探検隊、出張先：知床岬」と出張報告書の記入しながら、こんな出張も日常の一コマとなった自分は、また少し羅臼人レベルを上げた気がしました。

都市部で頑張っている看護師のみなさま…この貴重な体験をあなたもぜひ！？



啓吉湾（知床岬の少し西側）からの夕日（この浜辺が寝床）